海上保安大学校五十年史

平成13年４月　海上保安大学校　全景

正　　門

本館前の五十周年記念モニュメント

講堂兼体育館

入学式

卒業式

図書館

海上保安資料館

練習船「こじま」

第一実験棟

第二実験棟Ａ棟

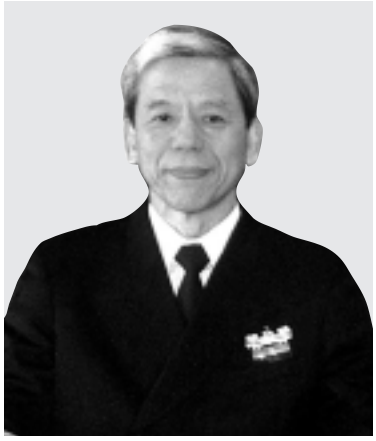
Sea Princess

三ツ石寮

麗女寮

海上保安研修センター

序



海上保安大学校長
青　木　　稔

海上保安大学校は、昭和26年６月東京越中島の仮校舎で本科第１期生の入学式を挙行してから、新世紀を迎えた西暦2001年（平成13年）に栄えある創立50周年を迎えました。

開校の翌昭和27年には広島県呉市の現在地に移転し、三方を海に囲まれた風光明媚な教育環境において、海上保安庁を担う若人の教育・研修を行い、これまでに延べ約13,000名の卒業生・修了生を送り出して参りました。

これらの卒業生・修了生は全国各地で活躍し、国民の付託に応えて、安全で・明るく・美しい海の実現を通し我が国の発展に貢献してきたところです。

教官においても、学生・研修生の教育に当たる一方、海上保安に係る独自の領域の研究活動を含め、各学術研究分野において成果を挙げてきております。

大学校の教育施設や練習船はいずれも開校から半世紀を経て一新され、旧海軍工廠当時の施設は端艇庫等をわずかに残すのみとなっております。

教育内容についても、平成４年３月卒業の本科第38期生から学士（海上保安）の学位が授与されるなど名実ともに充実が図られてきております。

また、公開講座、ヨット教室の実施、図書館の一般開放等により地域との連携を図っております。

ここに、歴代大学校長をはじめ教職員各位のこれまでのご努力に対し、心から敬意を表するとともに、呉市、広島県をはじめとする関係機関、地元市民の皆様の温かいご支援に対し厚く御礼申しあげます。

新世紀を迎え、海上保安業務も一段と、国際化、高度情報化が要請されており、時あたかも平成13年４月よりアジア諸国から留学生を受け入れ、大学校としても大きく国際化に踏み出したところでありますが、さらに21世紀の新しい時代の要請に応じた人材育成を図るべく教育・研修の充実に取り組んでいるところです。

今後、優れた教育環境と良き伝統を守りつつ、国際的視野に立つ有為なる幹部海上保安官を育成するとともに、研究活動を通じ海上保安業務に貢献することが、海上保安大学校に課せられた使命であり、これを全うすることが、ひいては四面を海に囲まれた我が国の発展に寄与するものと確信しております。

50年の歴史を振り返り、諸先輩のご努力や関係の方々のご尽力の足跡を記録にとどめ、今後の当大学校の使命達成に資することは大いに意義あるものと考え、創立50周年記念事業の一環として「海上保安大学校五十年史」の発刊を計画致しました。

この50年史が、今後の教育訓練実施の良き資料となるとともに、当大学校に対する関係各位のご理解を深める一助となり、一層のご支援を戴ければ幸いです。

50周年に寄せて

海上保安庁長官
縄　野　克　彦

海上保安大学校は、当庁の創設期において、戦後初めての行政分野となる警備救難業務に的確に対応する等の必要性から、昭和25年10月に従来の法科系大学や旧高等商船学校とは性格を異にする当庁独自の幹部海上保安官を養成する４年制の教育機関として設置されたわけでありますが、名実ともに教育が開始された翌26年６月の東京越中島の仮校舎における第１期生の入学式から数えて、今年で記念すべき創立50周年を迎えることができましたことは、当庁にとりまして大きな慶びとするところです。

顧みますと、戦後間もない時期に、「暗黒の海」と化した我が国周辺海域の治安と安全を守るために発足した当庁が、数々の課題と困難を克服し、世界をリードする海上保安機関に飛躍できましたのは、大きな志と情熱を持った若者が本校において教育訓練を受け、高度な学術や技能、強靭な気力や体力とともに「正義仁愛」の精神を身につけた幹部海上保安官に成長し、海上保安の現場第一線の指揮官として活躍してこられたからにほかなりません。

この間に当庁を取り巻く環境は大きく変化しており、特に近年においては、グローバライゼーションや情報技術革新などの急速な進展に伴い、海上保安業務の複雑、多様化、そして国際化は益々顕著になっております。国民の期待と信頼に応えるため、いかにして、内外関係機関との連携協力を密にし、目標に向かって効率的かつ効果的に業務を遂行していくかが問われる時代となっているものと考えます。

このような時期において、半世紀にわたり、一貫した全寮制教育のもとで幹部海上保安官を育み、海上保安に関する最高の学術と技能を培ってきた本校に求められる役割は極めて重要であります。時代の要請に応じた有能な人材の育成は勿論のことですが、社会情勢がいかに変化・進展しようとも的確に対応し得る柔軟な発想と思考能力、そして豊かな知識と社会性をもった人材の育成にも力を尽くす必要があります。

また同時に、当庁の複雑・多様化する政策課題に対し理論的な裏付けを与え、新たな方法論を提示するシンクタンクとしての機能も求められているところであります。

この機会に、本校に求められる役割の重要性を再認識していただき、輝かしい歴史と伝統、そして良き校風を次の世代に引き継ぐとともに、海上保安に関する研究を重ねられることにより、21世紀の当庁の礎を支える海上保安大学校として、更に飛躍されんことを大いに期待しております。

おわりに、これまで海上保安大学校の運営に関し多大なるご支援とご協力を賜りました地元呉市民をはじめとする関係者の皆様に対し深甚なる感謝を申し上げるとともに、本校の発展にご尽力された先輩諸氏に対し改めて敬意を表し、甚だ簡単ではありますが、創立50周年に当たっての私の言葉といたします。

創立50周年に寄せて

第19代校長
加　藤　正　義

私は海上保安大学校に昭和26年６月第１期生で入校し、さらに昭和61年４月から２年間本校卒業生として初めて栄えある校長勤務をさせていただいた。このようなことから、学生時代と校長時代についての思い出等を述べたい。

１　学生時代

私の海上保安庁勤務は、東京都江東区深川越中島の海上保安大学校仮校舎に、昭和26年６月７日午後４時着校し、白の事業服をもらい早い夕食を食べ日課説明を聞いて就寝した日から始まった。同年６月11日午前柳沢米吉海上保安庁長官臨席のもと、仮校舎食堂で入学式が挙行された。どういうわけか、制服は冬服で、ニュース映画社のライトで非常に暑かったことを覚えている。仮校舎は焼けずに残った旧東京高等商船学校学生寮の一部使用で、自習室の机は新品だったが10人部屋10室、寝室は50人部屋２室、教室は合併教室を含め３室、実験室などの特別教室は皆無だった。授業は講義中心で一般教養科目が多かったうえ、さらに専門関係では運用学で船体名称、舶用機関学では機関概要、電気通信工学では電磁関係などがあった。信号ではトンツー実技があり、一部クラスメイトは適性がなく非常に苦労していた。午後の授業では時々短艇があった。上手に漕げるようになると、現在埋め立ててしまった有楽町近くの数寄屋橋の下を通過し、また、木場方面水路を回ったことが思い出される。練習船は「栗橋」という総トン数約1,000トンの船齢50年余になるレシプロエンジン船だった。秋期に久里浜沖への乗船実習があり、第３海堡前で当時国連軍が設置した防潜網の開閉を見学したことを覚えている。冬季は清水への乗船実習だったが、折からの荒天で初めて船酔いを経験した。創設当時は社会的配意からか、正科に柔道、剣道は無かった。プールが無いので夏季の水泳訓練は出来ず、カッター不足から昭和27年１月の寒稽古はマラソンが主体だった。相生橋を渡り豊洲廻りコースで走ったが、今と異なり早朝自動車と行き逢うことはほとんど無かった。夏休みは昭和26年６月開校のため、同年８月中旬10日程度だった。このため昭和27年３月は月末まで授業があった。

海上保安大学校は種々の事情で東京都に本校舎を建設することをとりやめ、昭和27年度から呉市に移転することとなったが、なにぶん急な決定のため呉の受け入れ工事が遅れ、我々第１期生は昭和27年４月25日呉市に到着した。それから一週間は雑作業に忙殺させられた。このとき本校当局から強く申し渡されたのは、旧軍学校や商船学校のような上級生が下級生に対し私的制裁を加えるなということであった。もちろん我々は戦中派であり、これを当然のこととして受け入れ、現在の良き伝統が出来たと思っている。第２期生の入学式は同年５月６日であった。当時は海上保安訓練所と同居の状態で、次第に本校の施設が完成すると、訓練所生徒はうらやましげに見るようになり、環境的には問題であった。その他現在の本校敷地の中には豪州軍の将校宿舎や民間

企業の一部施設が残っていたが、それらはおおむね昭和30年ごろに全て解決したような記憶である。化学や物理の実験などは、松林のある根深い壕のなかに、改造した建物の部屋の新しいテーブルで行ったことが懐かしい。夏季水泳訓練は昭和27年度から本校前面海域で開始され、終わりに呉湾内での遠泳があった。昭和28年１月の寒稽古は、カッターとマラソンの二手に分けて実施された。昭和28年４月入校第３期生からは、現在の形に近いオリエンテーションが実施された。昭和28年夏季約１週間の島巡りカッター帆走訓練があった。最終日はあいにく風が全く無く必死で漕いで帰校し、同日夕方の汽車で帰省した。

われわれ第１期生は米国コーストガードに倣い、海技免状無しの前提で航海機関通信についてオールオーバーに学習したが、免状が必要ということになり、昭和30年３月海上保安大学校本科を卒業して更に半年、研修科甲の名称で海技免状取得のための研修が行われ、同年９月30日研修終了後ただちに10月期海技試験を受験し、同年11月16日付けで勇躍現地に赴いた。

２　大学校長時代

昭和61年３月第八管区海上保安本部長のとき海上保安大学校長内示を受けたので、前任地が海上自衛隊幹部候補生学校長だった本校卒業同期生の岡田憲海上自衛隊舞鶴地方総監を訪ねた。彼はその前にも同校で教官勤務があり、教育機関勤務に関し率直な意見交換をして、呉着任後の勤務指針を次のようにたてた。「校長は教育者でなく教育管理者として組織をリードする。学生に校長の意向を浸透させるには、まず教官との対話により進める。教官の採用には万全を期す。改善すべき問題は多々あると予想されるが、現場業務と異なり、それらは教育機関の特殊事情から出来なかったものもあり、急激な改革をすると後日不具合な問題が発生して後戻りせざるを得ないような恐れのあるものは慎重に進める」。これらについては私は２年間の校長勤務時、常に反芻して対処したつもりである。

校長勤務のとき海上保安庁から、ゆとりあるカリキュラムへの改正検討作業を実施するよう指示があったので、全教官と対話して素案の作成を行った。授業時間数を削減することは全般的に賛成で、関係教官から単位の削減に協力してもらった。そのとき、講座教官の理解により海上公害論が海上環境法に、海上交通管理論が海上交通工学に、防災論が海上安全工学に変更になり、内容も充実できたことは本当によかったと思っている。併せて、各教官との対話においてお願いしたのは、「私の経験からでは卒業後すぐに役立つ教育内容は、およそ10年で社会情勢の変化と忘却により意味がなくなる。本校は職業訓練機関でもあることから、学生にある範囲の業務実態的内容の説明は必要であるが、それより大切なのは講座の学問的内容、各教官が研究から得た問題解決への方策について、興味深く教えていただきたい。」ということであった。これは学生が卒業してから行政事務の遂行に大きく役立つと思ったからである。

本校は設立から50年の輝かしい歴史を創った。とくに、最近の海上保安業務の急激な国際化により、本校に多数国の外国人研修生を受け入れるようになった。また、一般大学でも大学院教育の強化が叫ばれている折から、本校も海上保安庁のシンクタンクとしての役割を果たすべく、大学院研究科、付属研究所の設置などを進める必要がある。さらなる発展を祈るや切である。

目　　次

題字・序 …… 海上保安大学校長　青木　　稔
50周年に寄せて …… 海上保安庁長官　縄野　克彦
創立50周年に寄せて …… 第19代海上保安大学校長　加藤　正義

創立50周年記念行事

1　練習船「こじま」体験航海 …… 3
2　全日本カッター競技大会 …… 3
3　文化展 …… 4
4　創立50周年記念式典及び祝賀会 …… 4
5　教官企画展示 …… 10
6　曽野綾子氏講演会 …… 12
7　衣笠祥雄氏講演会 …… 12
8　海上保安庁音楽隊演奏会 …… 13

沿　革　編　1

Ⅰ　前史 …… 17
Ⅱ　海上保安大学校創立後の変遷 …… 21

沿　革　編　2

Ⅰ　教育の充実
　1　教育体制、カリキュラムの変遷・充実 …… 41
　2　学士号の認定 …… 48
　3　特修科、研修科の拡充 …… 55
　4　男女共学への対応 …… 56
　5　教育設備・教材の整備
　　⑴　図書館 …… 58
　　⑵　練習船 …… 60
　　⑶　大型機材の整備 …… 63

Ⅱ　国際化への対応
　1　国際化教育 …… 66
　2　海外からの研究者招聘、研修・留学生受け入れ …… 67
　3　学生国際交流 …… 70
　4　海上保安国際学生会議 …… 72

Ⅲ　高度情報化への対応 …… 75

Ⅳ　地域社会との連携・貢献 …… 81

Ⅴ　施設の変遷・整備・充実 …… 88

Ⅵ　その他の出来事 …… 97

学　生　生　活　編

Ⅰ　学生生活
　1　主な出来事 …… 101
　2　学生の車両の運行についての経緯 …… 104
　3　海上保安大学校学生等生活規則改正関連 …… 105
　4　課外活動 …… 107
　5　学生祭の歩み …… 118
　6　園児招待 …… 122
　7　弁論大会 …… 126

Ⅱ　訓練
　1　水泳 …… 127
　2　耐寒訓練の変遷 …… 134
　3　遠洋航海 …… 140

Ⅲ　学生・研修生に対する主な講演 …… 158

資　料　編

Ⅰ　教育形態の変遷 …… 163

Ⅱ　教科目の変遷 …… 164

Ⅲ　組織の変遷
　1　事務組織の変遷 …… 192
　2　講座の変遷 …… 194

Ⅳ　図書館
　1　図書館の変遷 …… 195
　2　図書の変遷 …… 196

Ⅴ　練習船の歩み …… 197

Ⅵ　歴代幹部一覧 …… 201

Ⅶ　名誉教授一覧 …… 203

Ⅷ　教官研究、書籍・研究書の出版
　１　研究報告、論文一覧 …… 204
　２　海保大教官の執筆した出版物 …… 227

Ⅸ　本科学生特別研究報告一覧 …… 231

Ⅹ　本科学生の動向
　１　学生採用試験状況の推移 …… 266
　２　本科学生出身県別調 …… 267

Ⅺ　卒業（修了）生名簿
　１　本科 …… 270
　２　特修科 …… 274
　３　科別卒業（修了）生の推移 …… 282

愛　唱　歌

海上保安大学校校歌 …… 287
寮歌 …… 288
練習船の歌 …… 289
はばたき …… 290
友愛の城 …… 291

回　顧　編 …… 295

海上保安大学校アルバム …… 325

年　　表 …… 343

あとがき

付　　録（ＣＤ）